



2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月10日

上場会社名 福留八ム株式会社

上場取引所 東

コード番号 2291 URL <http://www.fukutome.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 福原 治彦

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 経理部長 (氏名) 深町 誠

TEL 082-278-6161

四半期報告書提出予定日 2022年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	5,930	1.8	75		48		59	
2022年3月期第1四半期	6,042		95		72		25	

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 108百万円 (%) 2022年3月期第1四半期 142百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	17.75	
2022年3月期第1四半期	7.69	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	14,552	3,342	23.0
2022年3月期	14,452	3,451	23.9

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 3,341百万円 2022年3月期 3,450百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		0.00	0.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	12,500	1.9	15		35		15		4.50
通期	25,200	3.2	100		140		100		29.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	3,400,000 株	2022年3月期	3,400,000 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	63,030 株	2022年3月期	63,010 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	3,336,975 株	2022年3月期1Q	3,337,014 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種進展により感染者数が低水準で推移し、行動制限の緩和や個人消費の回復など経済社会活動に回復の兆しが見られたものの、為替相場における急激な円安やロシアによるウクライナへの軍事侵攻に起因したエネルギー価格や原材料価格の高騰など、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

当業界におきましては、原材料費やエネルギーコスト、物流コストなどの上昇が企業収益を圧迫しており、景気の先行き不安からくる消費者の低価格・節約志向は一層厳しさを増し、競合他社との価格競争の激化や人手不足等による労働コストの上昇などの影響もあり、依然として厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは、今期を最終年度とした「中期経営計画2021年3月期 - 2023年3月期」において、「開発・調達・製造・物流・販売の連携強化を通じた相乗効果の創出」をテーマとして「商品開発の強化」、「販売戦略の構築と実行」、「新規市場へのチャレンジ」の三点に取り組んでおり、各重点施策の展開を積極的かつスピーディーに実行し、収益力向上と経営体質強化に努め、企業活動を推進してまいりました。

販売につきましては、2022年に発売70周年を迎えた当社オンリーワン商品である「花ソーセージ」のキャンペーン展開や豚のタンを味付けしてスモークで仕上げた「厚切りポークタン」や肉の食感が感じられるように厚切りにスライスした「厚切りカタロースハム」を新たに発売し、生活様式の多様化に対応した商品展開や新商品の開発など販売強化を図ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、59億30百万円(前年同四半期比1.8%減)となりました。利益につきましては、営業損失は75百万円(前年同四半期は営業損失95百万円)、経常損失は48百万円(前年同四半期は経常損失72百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は59百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失25百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

加工食品事業

加工食品事業におきましては、コロナ禍によるまとめ買い需要の増加によりウインナー群の大袋商品や新たに発売を開始した食感や食べ応えが特徴の「厚切りポークタン」や「厚切りカタロースハム」などが堅調に推移いたしましたが、商品価格改定の影響による販売の落ち込みや同業他社との価格競争の激化により、売上高は減少いたしました。利益につきましても、業務の効率化や生産性向上等に取り組んだものの、原材料価格の高騰や燃料価格上昇によるエネルギーコストの上昇などにより減少いたしました。

その結果、売上高は25億62百万円(前年同四半期比3.8%減)、セグメント利益(営業利益)は77百万円(前年同四半期比14.3%減)となりました。

食肉事業

売上高につきましては、国産・輸入牛肉ともに量販店向けの販売が低調に推移したものの、国産牛肉の販売単価の上昇や外食産業の回復等もあり、牛肉全体の売上高は増加しました。豚肉につきましては、輸入豚肉の品薄感からくる代替需要などにより、国産豚肉の売上高は増加したものの、海外の現地価格高騰や天候不順による供給不足等の影響により、輸入豚肉の売上は減少するなど、豚肉全体の売上高は前年同期を下回りました。利益につきましては、採算重視の販売に努めたことやコスト削減努力により前年同期を上回りました。

その結果、売上高は33億68百万円(前年同四半期比0.3%減)、セグメント損失(営業損失)は16百万円(前年同四半期はセグメント損失(営業損失)27百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ99百万円増加の145億52百万円となりました。流動資産は、前連結会計年度末に比べ2億18百万円増加の61億37百万円となりました。主な要因は、商品及び製品2億49百万円と原材料及び貯蔵品69百万円の増加と現金及び預金1億55百万円の減少によるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ1億19百万円減少の84億15百万円となりました。主な要因は、建物及び構築物29百万円と投資有価証券75百万円の減少によるものであります。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ2億8百万円増加の112億9百万円となりました。流動負債は、前連結会計年度末に比べ3億13百万円増加の72億88百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金2億97百万円とその他1億16百万円の増加と賞与引当金75百万円の減少によるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ1億5百万円減少の39億21百万円となりました。主な要因は、長期借入金63百万円とその他33百万円の減少によるものであります。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ1億8百万円減少の33億42百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金55百万円の減少と利益剰余金59百万円の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期(累計)及び通期の業績予想につきましては、2022年5月13日に公表いたしました業績予想の変更はしておりません。

今後、修正が必要となる変化がある場合には適切に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,354	2,199
受取手形及び売掛金	2,378	2,421
商品及び製品	894	1,144
仕掛品	51	56
原材料及び貯蔵品	211	280
その他	40	47
貸倒引当金	△13	△12
流動資産合計	5,918	6,137
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,415	2,386
機械装置及び運搬具（純額）	662	656
土地	2,888	2,888
リース資産（純額）	105	97
建設仮勘定	8	19
その他	62	57
有形固定資産合計	6,143	6,107
無形固定資産	123	118
投資その他の資産		
投資有価証券	2,055	1,979
その他	316	313
貸倒引当金	△103	△103
投資その他の資産合計	2,267	2,189
固定資産合計	8,534	8,415
資産合計	14,452	14,552

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,080	2,377
短期借入金	4,079	4,079
未払法人税等	47	22
賞与引当金	154	78
その他	613	730
流動負債合計	6,974	7,288
固定負債		
長期借入金	1,779	1,716
役員退職慰労引当金	340	344
退職給付に係る負債	1,511	1,498
その他	395	361
固定負債合計	4,026	3,921
負債合計	11,001	11,209
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,691	2,691
資本剰余金	1,503	1,503
利益剰余金	△1,256	△1,316
自己株式	△80	△80
株主資本合計	2,857	2,798
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	604	548
退職給付に係る調整累計額	△11	△5
その他の包括利益累計額合計	593	543
非支配株主持分	0	0
純資産合計	3,451	3,342
負債純資産合計	14,452	14,552

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	6,042	5,930
売上原価	5,087	4,956
売上総利益	954	973
販売費及び一般管理費	1,049	1,049
営業損失(△)	△95	△75
営業外収益		
受取利息及び配当金	23	24
不動産賃貸料	13	13
その他	9	12
営業外収益合計	46	51
営業外費用		
支払利息	16	16
不動産賃貸費用	6	6
その他	0	0
営業外費用合計	24	23
経常損失(△)	△72	△48
特別利益		
固定資産売却益	54	-
特別利益合計	54	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△18	△48
法人税、住民税及び事業税	7	11
法人税等合計	7	11
四半期純損失(△)	△25	△59
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△25	△59

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純損失(△)	△25	△59
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△121	△55
退職給付に係る調整額	3	6
その他の包括利益合計	△117	△49
四半期包括利益	△142	△108
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△142	△108
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,664	3,378	6,042
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	2,664	3,378	6,042
セグメント利益又は損失(△)	90	△27	62

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	62
全社費用(注)	△157
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△95

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	加工食品事業	食肉事業	
売上高			
外部顧客への売上高	2,562	3,368	5,930
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	2,562	3,368	5,930
セグメント利益又は損失(△)	77	△16	60

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	60
全社費用(注)	△136
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△75

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であり、管理部門に係る費用であります。